



蒲郡文化

No.212

蒲郡市栄町3番30号

蒲郡市文化協会

TEL・FAX(0533)68-5509

URL <http://www.gamagorishibunkyo.jp>

gorishibunkyo.jp

E-mail g.bunka@lion.ocn.ne.jp

蒲郡市民憲章と市民文化



蒲郡市教育委員会

教育長 大原 義文

三年前に亡くなった父が人生の最後に記した文章が、「蒲郡文化」平成二十八年一月十五日号の巻頭に掲載いただいた「祝！『蒲郡文化二〇〇号』でした。

昨年、私は、思いもかけず稲葉蒲郡市長からご推薦をいただき、この大役につかせていただいた訳ですが、今回貴重な紙面に拙い文を寄せさせていただく機会をいただいたことに感謝を申し上げますと共に、不思議なご縁を感じるものです。

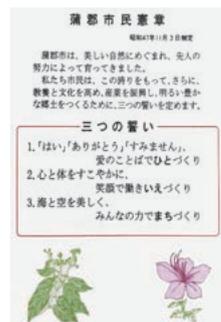
さて、昨年八月二十九日と九月二十七日に中日新聞の「発言」欄に蒲郡市民憲章について、二つの投稿記事が掲載されました。一つは、「愛のことはで助け合い」という市内にお住まいの六十五歳の女性からの投稿です。その概要は次のようなものです。

「市民憲章の第一節『はい』『ありがとう』『すみません』『愛のことでひとつづくり』の言葉をいつもかみしめている。謙虚さを忘れずに感謝の気持ちを持ち続けると、その姿勢が周りの人にも優しいさの輪となって広がる。これまで苦しいことやつらいことを経験したが、この言葉に何度助けられたことか。」

もう一つは、この投稿を読まれた名古屋市長在任の五十五歳の女性から「蒲郡『三つの誓い』暗唱」というもので、次のような概要です。

「故郷を離れて三十年以上になるが、市民憲章の『三つの誓い』全文が自然と口をついて出てきた。市民憲章制定当時は小学生だが、

全文が記憶に残っているということは、子どもなりに『美しい文で大切なことを説いている』と思つて心に留め置いたのかも知れない。皆さんも一度声に出して読んでほしい。蒲郡だけでなく、今の日本全体に言えることだと私は思った。」



蒲郡市民憲章の制定は、昭和四十七年十一月三日、制定当事情事小学校一年生だった子どもも、すでに五十四歳になることとなります。制定には、十六回に及ぶ議論がされ、簡潔で具

体的、平易で覚えやすく、リズムカルで唱和しやすいこと、蒲郡市の特色を表したものであることが基本とされました。当時多くの自治体で市民憲章が作られています。蒲郡市民憲章ほど子どもからお年寄りまで、世代を超えて市民に唱和され、愛されているものはないと思います。

ところで、この会報の名称は「蒲郡文化」ですが、「文化」は、英語ではカルチャー (culture) で、その語源はラテン語の「colere」に由来し、「耕す」の意があるそうです。畑を耕し、種をまき、水やり、草を取り、作物を育てる農業のように、長い年月と努力によって醸成し、心を耕すものを「文化」と呼べるのではないのでしょうか。そこには、先人の次の時代を生きる人への「思い」が、込められているように思います。そうした意味で、簡潔な「三つの誓い」の唱和の継続によって、市民の生きる支えや思いにとけ込んでいる「蒲郡市民憲章」は、本市の市民文化の一つになっていると思う次第です。

教育は、未来を生きる人を育て、生き抜く力を養うことが、大切な柱です。「ひとつづくり、いえつくり、まちづくり」と三つの連携の大切さを平易な言葉で提起する市民憲章が、改めてその価値が見直される時代の転換期であると感じています。

愛知県民茶会

十月十四日(日)

豊川閣妙庵寺 (豊川稲荷)

明け方に残っていた雨も九時前には上がり、寒くもなくおだやかなお茶会日和となりました。

蒲郡は、表千家の竹内宗綏先生が席を持たれました。茶席は最祥殿を入って三番目という場所(くじ引きで決められるとか)にも恵まれたおかげか、平均四十五分〜一時間ほどの待ち時間にもかかわらず、たいへ

ん多くの方に来て頂きました。

席は大板を使ったお手前で、道具の取り合わせもこの時期にあうようにしたり、他の席と同じにならないように苦労されたそうです。

また、お菓子はこの席のために「竹島」という銘で蒲郡の菓子元に創作して頂いたとか。甘みを抑えた上用饅頭でおいしくお菓子とお茶を頂くことができました。

全体では十六席で、来場者が約五千人、茶券回収枚数は九八九〇枚。その中でも竹内先生の席は、七十三人と多くの人に入って頂き、たいへ



ん賑やかな茶会となりました。できれば、もう少しゆったりと楽しめる時間であったらと思いつきながら帰ってきました。

席主、お手伝いの皆さま本当に疲れさまでした。

文化の継承

大相撲と相撲甚句

蒲郡相撲甚句会

会長 竹内陸温

相撲甚句は江戸時代の享保年間

に、相撲取りが地方巡業と花相撲で唄ったのが起源。一般的には甚句という秋田甚句、米山甚句、木更津甚句が有名です。一方、角力が明治の初期に相撲甚句を開いた。名古屋の芸奴が三味線を付け「芸者殺すには刃物はいらぬ甚句止めたら皆殺し」といわれるほど花柳界では流行し、名古屋甚句もその流れといわれています。戦前は「角力甚句」ばかりで、戦後はほとんど「相撲甚句」となり、角力↓相撲と変わった点が目につきます。このような相撲甚句と単に相撲取りが、花相撲や地方巡業で唄うだけでなく、日本各地の民謡と関わりが深いよう

で、力士が得意の声で唄い聞かせるようになってきました。

近年では独特の哀愁のある節回しが一般の人達に受けて、全国に相撲甚句の会が結成され、北は北海道から南は九州で唄われるようになりました。

相撲甚句は邦楽の一種で花相撲や大相撲本場所前夜祭や各地巡業で披露され七五調の囃子唄である。土俵上で力士が五、六人輪になって立ち、輪の中央に一人が出て独唱する。甚句は「まくら唄」「本唄」「囃子唄」になっていますが、唄い方は同じ。本唄の歌詞は色々ありますが、節回しは同じです。甚句は民謡や小唄、端唄と違って鳴り物はなく、前唄↓本唄↓囃子唄の順に唄っていきます。



「ドスコイ ドスコイ」と「ホイ」だけで唄うことからバス旅行や忘年会、結婚式の披露宴等でとても喜ばれます。

ふるさと文化財の謎(4)

上ノ郷城跡

上ノ郷城は、神ノ郷町の赤日子神社の北西の丘陵に築城された。本来は下ノ郷に対する呼称である。

周辺の兼京川や溜池は、水堀として機能した。城は石垣を用いない土塁築城法であるが要害堅固な城であった。鶴殿氏は、長善・長将・長持・長照の四代にわたり繁栄した。特に長持は今川義元の妹を娶り、領国内では今川方の強い勢力を誇っていた。

永禄三年の桶狭間に於いて今川義元が織田信長の奇襲で討死すると三河の形勢は混乱した。



岡崎城主の徳川家康は今川氏真と縁を切り、織田信長と講和をし、そのため今の蒲郡市は今川対徳川の最前線となった。

永禄五年に家康の命で竹谷松平清善が



攻めたが難攻不落の城は反撃が強く容易に落ちず困った。そこで、家康は伊賀と甲賀の忍者約二百人を城内に侵入させ放火した。その混乱に乗じて落城させ

た。長照の子、氏長と氏次は人質となり、駿府に残った家康の妻子と交換された。実は松平清善と鶴殿長照は異父同母の兄弟であるが、主君の違いから敵となったのである。

上ノ郷城跡は昭和三十一年に市の史跡に指定され、平成十八年から八回の発掘調査により、主郭(本丸)・東郭・西郭の様子が明らかに

な

った。主郭の石組の区画から五つの区域に分かれていたと判明した。地元の神ノ郷町の住民を中心とする城跡保存会は平成三十年二月に枝垂れ桜三本を植樹し、花の名所にしようと希望を抱いている。

(文・写真 林 正夫)

初心者のための文協講座

木彫教室

講師 鈴木康祐
参加者 11名



今年の干支のいのししを彫り、市民文化祭に出品しました。

俳句出前講座

講師 壁谷禮伺
参加者 形原小学校5年生 61名



形原小隣の御嶽神社を吟行し、2句ずつ市民文化祭に投句しました。

図書館文学講座に参加して

10月6日蒲郡市民会館にて、愛知大学名誉教授 黒柳孝夫氏の「人間、俊成と蒲郡について」の講座を70名の皆さまと聴講しました。始めに蒲郡市大原教育長の「開館50周年を来年に控え、蒲郡とは縁の深い黒柳先生をお迎えしての会です。」とご挨拶がありました。講座は俊成の歌「世の中よ道こそなかれ思ひ入る山の奥にも鹿ぞ鳴くなる」の解釈に始まりました。平安末期から乱世を生きたつ歌人としての俊成は後鳥羽院の大賛辞をうけられた。竹谷、蒲形の莊園の開発の祖。冷泉家との関係。熊野信仰のこと等々。とりわけ文協短歌部会の会員である私は一時間半を興味深く拝聴しました。何気なく参加している蒲郡俊成短歌会の重みを感じました。(鈴木美耶子)

第43回 愛知県文連美術展

- 平成31年1月30日(水)～2月3日(日)
刈谷市美術館にて
- 蒲郡市文協より多くの方が出品されます。どうぞご出掛け下さい。

市民文化祭



開会式典 11月2日10時～

200人ほどの出席のなか、教育長の開会の挨拶、市長・文化協会長の挨拶、衆議院議員の祝辞を頂き市民文化祭が始まりました。



アトラクションは、今回のためにハーモメイツを結成していただき「みどりのそよ風」をはじめ6曲を歌って頂きました。

芸能発表会

11月3日・4日



ホール会場

二日にわたる発表会で延べ600人以上の人が、舞踊・吟剣詩舞・謡曲・民謡・雅楽・和太鼓・大正琴等、普段の稽古の成果を披露して頂いた。また今回から舞踊部会に新しくバレエがもう一組参加する事になった。



お昼の幕間に若い男性が尺八、女性が三味線を持ってきて、演奏の仕方やパチの使い方の違いなどを披露していただいた。

箏曲演奏会

11月23日



市長賞	鈴木ふみ江
県議会議長賞	牧野 満文
県文協連合会賞	永山はつ子
市議会議長賞	平野 辰美
市教育委員会賞	永島 忠雄
市文化協会賞	松山 剛

詩吟コンクール入賞者



洋楽発表会

11月18日



市民茶会

11月4日

表千家 大会議室
裏千家 中会議室
煎茶 三興庵



各席とも趣向を凝らし、皆さん楽しくお茶をいただく事ができたが、当日は雨になってしまったこともあり、茶室に行かれる人が非常に少なく残念だった。



菊花展受賞者

市文化協会会長賞	市教育委員会賞	中日新聞社賞	商工会議所会頭賞	農業協同組合長賞	市議会議長賞	市長賞	県文協連合会賞	県教育委員会賞	県議会議長賞		
嶋田勝美	竹内正喜	清水正義	村松捷二	西浦中学校	田島道秋	金沢三千代	飛田正季	河井宏幸	樋山利枝	福井敬子	小林春枝

東ホール会場



書道・工芸展

11月2日～4日

出品点数 工芸 122点
書道 134点
参観者数 770人

華道展

11月17日・18日

出品点数 59点
参観者数 807人



書道33人、工芸22人の一般参加があった。書道は、子供さんたちの参加、工芸は、寿楽荘の陶芸、文協講座の木彫の干支を出品。華道展は、出品点数は少なかったが、季節の花材を中心とした華やかな作品となっていた。

華道展では、お茶の接待もあり、お花を眺めながら、多くの人がお茶を頂いた。



会議室会場

11月17日・18日



皆さん高齢化してきたこともあるのか、小品盆栽・席飾りが多くなってきた。

臯月盆栽展 大会議室

出品点数 42点 参観者数 280人

水石展 中会議室

出品点数 39点 参観者数 275人



短歌会入賞者

県教育委員会賞 藤井 千代
 子らの来て夕餉のあとのかたづけに触るる器の音やすらけし
 県文協連合会賞 牧原 正枝
 なかなかに立ち居のゆかぬ母なれど座れば自づと膝頭の揃ふ
 市長賞 夏目富美子
 仕事やめ機音のなき日々にして金木犀の香庭に漂ふ
 市議会議長賞 中村 文子
 九十八の叔母の編みたる布草履古き浴衣地やさしく触るる
 市教育委員会賞 太田 文子
 初めてのスマホを操作する夫わが呼ぶ声はひと日聞こえず
 市教育委員会賞 齋藤とし子
 爆竹や笛や太鼓も音微か夜勤者多き町の祭りは
 市文化協会賞 三田美奈子
 船大工の作りてくれし俎板を夫は生涯大切に使用ひき
 市文化協会賞 稲吉 友江
 時折に記憶の揺らぐ母在りてああ遠くに聞こゆ蝸の声
 佳作
 長木 晶子 鈴木志満江 嶋田 稔 吉見 宏
 杉浦 常子 堀井 道子 尾崎 妙子 加藤芙美代

俳句会入賞者〔募集句学生の部〕

市長賞 稲吉恵維南 こもれびのあしもこのみみいつけた
 市議会議長賞 近藤あみ うもれてる落ち葉の中のクローバー
 市教育委員会賞 壁谷朋花 笑い声ひびいてくるよ秋祭り
 市文化協会賞 小澤聡真 秋の風木の葉ゆらして去ってゆく

俳句会入賞者〔募集句の部〕

県文協連合会賞 平野 京子
 面決まる竹刀の音や秋澄めり
 市長賞 中村つとむ
 葛の蔓引けば遠くの花揺るる
 市議会議長賞 竹内 芳子
 のけぞりて笑う羅漢に蝉時雨
 市教育委員会賞 小田八千代
 秋彼岸つましく生きし妣の数珠
 市文化協会賞 小田 智子
 城跡に二胡の調べや観月会
 中日新聞社賞 犬飼ヨシエ
 村祭はち切れそうな稲荷ずし
 中日新聞社賞 小田かず子
 諸届く広告裏の走り書き
 蒲郡新聞社賞 小田二三枝
 星飛ぶや山荘に子の枕投げ
 蒲郡新聞社賞 稲吉 園江
 鯉飛ぶや手話の夫婦の睦まじく

俳句会入賞者〔当日句の部〕

県教育委員会賞 安藤 幸子
 枯菊や星一つ付く兵の墓
 市長賞 長坂 將代
 ポケットの木の実預けて逆上がり
 市議会議長賞 牧原 克子
 六地藏の一人がくしゃみ学芸会
 市教育委員会賞 夏目 ヒサ
 忘ること多くなりけり鶉の糞
 市文化協会賞 鬼頭 幸子
 袴の裾踏みて転べり千歳飴
 中日新聞社賞 鈴木 俊子
 健やかに暮らし勤労感謝の日
 中日新聞社賞 廣中みなみ
 婿と酌むボジョレヌーボー月冴ゆる
 蒲郡新聞社賞 鬼頭 幸子
 落葉踏む音に力のありにけり
 蒲郡新聞社賞 広中 順子
 法話聞く広き本堂すきま風

- ・短歌投稿者 44名
- ・俳句投稿者 一般 77名
- ・形原小学校五年生 61名

- 短歌会参加者 21名
- 俳句会参加者 47名

たくさんのご応募・ご参加ありがとうございました。

文化財めぐり

石清水八幡宮

松花堂庭園を訪れる

十一月十四日(水)

此の上なき小春日和に恵まれ、午前七時、バス二台六十名で市民会館を出発した。少し早めの昼食を車内ですませ、京都府八幡市に着き、男山ケーブルに乗り三分ほどで石清水八幡宮に到着した。参道への木立を抜け、南総門をくぐると、目の前に丹漆塗のまばゆいばかりの御本殿の楼門が聳えていて、その荘厳さに圧倒された。



日本三大八幡

宮のひとつであ

り、伊勢神宮に

次ぐ国家第二の

宗廟と称されて

きた。御本殿を

含む十棟並び棟

札三枚が国宝、

摂社五社、総門

三門が重要文化

財に指定されている。

一同社殿に入り御祓を受

け、神職の方の御案内で、通

常非公開の織田信長寄進の黄

金の雨樋、本殿を囲む瑞籬の

欄間彫刻の数々を見させてい

ただいた。神殿を出て、長く

連なる信長塀、楠木正成の楠、

鬼門封じの石垣などにふれ、

七五三の参拝などで賑わう八

幡宮を後にした。

次の目的地である松花堂庭

園はすぐ近くであった。庭園

に入ると手入れの行き届いた

竹林が。その竹林には黒竹をはじめ、珍しい金明孟



宗竹など四十種類を超える竹や笹が植えられており、その先には、松花堂昭乗ゆかりの草庵やそれぞれ趣の異なる、松穩、梅穩、竹穩の三棟の茶室が建てら

れていた。又いろいろな種類

の竹垣、水琴窟など見所いっ

ぱいで時間が足りないくらい

であった。広い椿園では一、

二輪咲きはじめた椿もあった

が、見頃になればどんなに壮

観かと心を残しつつ庭園を立

ち去った。

この地方特有の時雨に会っ

たが、初冬の京の風情に浸る

事が出来た一日であった。心

配された渋滞にも会わず、定

刻どおり帰途に着く事が出来

た。

かへりみる朱の楼門や初時雨

牧原 克子

市民文化祭

博物館ギャラリー会場



写真展



絵画展



水墨画展

写真展

11月2日～4日

出品点数 53点

参観者数 367人

水墨画展

11月9日～11日

出品点数 72点

参観者数 368人

絵画展

11月16日～18日

出品点数 54点

参観者数 384人



毎回、金曜日の午後から作品の搬入・飾り付け。額の大きさなど当日にならないとわからないところもあり、作品を並べて間隔など決めてから、博物館の学芸員さんの協力を得て飾り付けを行っています。

《第8回文化事業》
 しん 秦 琴 コンサート
 きん
 ～中国の古典楽器～

2月17日(日)
蒲郡市民会館大ホール

開場：午後1時30分
 開演：午後2時

秦琴・ピアノ・チェロの演奏と金澤ヒューマン文庫を
 愛し守る会による朗読をお楽しみ下さい。

《チケット発売中》

前売券 1,000円 (18歳以下500円)

当日券 1,500円 (18歳以下700円)

文協事務所又は市民会館窓口にて

秦琴って？ 1月27日(日) 午後3時～

深草さんに来て頂き、事前講演会を行います。

蒲郡市民会館東ホール(入場無料)

申込：文協事務所 TEL・FAX 68-5509

2019.2.17(日) 開場 13:30 開演 14:00 蒲郡市民会館 大ホール
 蒲郡市民会館 蒲郡市栄町3-30 TEL(0533)67-5151

入場料 一般前売 1,000円 当日 1,500円 (税込 全席自由)
 18歳以下前売 500円 当日 700円 (税込 全席自由)

チケット取扱い 蒲郡市文化協会事務局 TEL0533-68-5509
 蒲郡市民会館窓口 TEL 0533-67-5151

主催：蒲郡市文化協会
 共催：蒲郡市教育委員会

●秦琴についてのレクチャー(入場無料)
 1月27日(日)15時～ 市民会館東ホール 申込：蒲郡市文化協会

ピアノ：編曲 渡辺 雅二 朗読 金澤ヒューマン文庫を愛し守る会 チェロ 諸岡 由美子

お問い合わせ 蒲郡市文化協会事務局(蒲郡市民会館内) TEL & FAX 0533-68-5509

月	例	茶	会
◆2月17日(日)	板倉宗真(表千家)	いずれも市民会館三興庵	午前10時～午後3時
◆3月10日(日)	鈴木宗艶(裏千家)	茶券：1席500円	前売券は文協事務所にて販売
◆4月14日(日)	鈴木博翠(薫風流)		当日券は三興庵にて販売
図書館の催し物 (問合せ TEL69-3706)			
箔屋スフィカのアルミホイルの世界展		1月14日(月・祝)～ 2月3日(日)	
企画展「アフリカでみたこと 蒲郡発、国際協力の現場から」		2月9日(土)～17日(日)	
土曜会墨彩画展		2月20日(水)～27日(水)	
蒲郡切り絵同好会第14回切り絵展		3月1日(金)～10日(日)	
企画展「図書館開館50周年記念プレ企画展示」		3月16日(土)～ 4月7日(日)	
ほっこりあったか絵手紙展		4月14日(日)～ 5月5日(日)	
博物館の催し物 (問合せ TEL68-1881)			
企画展 コーナー展示「絵はがき昭和紀行」		開催中 3月31日(日)まで	
蒲郡っ子作品展		1月25日(金)～29日(火)	
中日写真協会蒲郡支部70周年記念写真展		2月20日(水)～24日(日)	
第34回写真集団「雲」作品展		2月27日(水)～3月3日(日)	
人権展		3月7日(木)13時～14日(木)	
手織場展		3月22日(金)～24日(日)	